

製品名: BAIAP2L2 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab07454**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	52kDa

抗原情報

遺伝子名	BAIAP2L2
別名	BAIAP2L2; Brain-specific angiogenesis inhibitor 1-associated protein 2-like protein 2; BAI1-associated protein 2-like protein 2; Planar intestinal- and kidney-specific BAR domain protein; Pinkbar
遺伝子 ID	80115.0
SwissProt ID	Q6UXY1
免疫原	抗血清はヒト BAIAP2L2 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 111-160

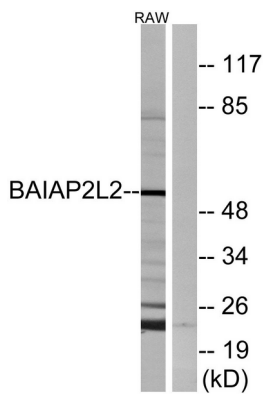
背景

この遺伝子によってコードされるタンパク質は、ホスホイノシチドに結合し、平面または湾曲した膜構造の形成を促進する。コードされるタンパク質は、RAB13 陽性小胞および細胞膜との細胞間接触部に見られる。[RefSeq 提供、2012年12月],ドメイン: IMD ドメインはらせん構造をとると予測される。アクチンの束形成と糸状仮足の形成を誘導する可能性がある。機能: アダプタータンパク質として機能する可能性がある。類似性: 1つの IMD (IRSp53/MIM 相同性) ドメインを含む。類似性: 1つの SH3 ドメインを含む。

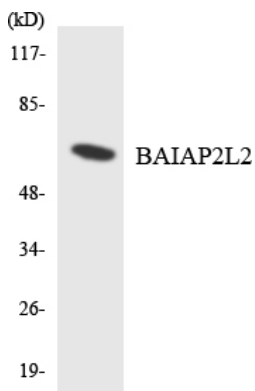
研究分野

-

画像データ



BAIAP2L2 抗体を用いた RAW264.7 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。



BAIAP2L2 抗体を使用した HT-29 細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。